

平成27年度
第7回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成27年11月6日（金）10：00～12：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成27年度第7回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こまつ 小松	やすのぶ 泰信	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
しおみ 塩見	まさこ 槿子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
たかはた 高旗	ひろし 浩志	岡山大学教師教育開発センター教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
ふじわら 藤原	けいこ 恵子	株式会社フジワラテクノアート代表取締役社長

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻がまいりましたので、平成27年度第7回岡山市基本政策審議会を開会いたします。

2 会長あいさつ

開会にあたりまして越宗会長よりご挨拶をお願いいたします。

○越宗会長 はい。皆様おはようございます。委員の皆様には本当にお忙しい中、岡山市の新たな総合計画について議論、検討していただきまして、ありがとうございます。

今日は会議次第にございますように、27年度の第7回審議会、通算しますと9回目の審議会になります。前回の10月の審議会で、今月下旬に長期計画を取りまとめると、そういう方向に向けての最初の議論ということで、岡山市のまちづくりの基本的な方向性、あるいは目指すべき都市像等々、まちづくり全般にわたっての議論、総論をいただいたわけでございます。今日は前回の議論を踏まえまして、総論を文章化したものが事務局から提示されております。また、この総論を受けました分野別の取り組みの方向性についても「都市づくりの10の基本方向」として、市のほうから提示をされております。今回、提示されたものにつきまして、今回と次回の11月16日、この2回にわたりまして、委員の皆様にご議論いただいて、よりよい答申にしていきたいと考えております。いよいよ大詰めでございますが、委員の皆様にはどうぞよろしくお願いをしたいと思っております。ではよろしくお願いをいたします。

○事務局（植月） 続きまして本日の委員の皆様の出席状況ですが、2名の委員の方がご都合によりご欠席でございます。なお、基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。本日の司会を務めさせていただきます総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。それでは本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 それでは着席して会議次第に沿って議事を進めてまいりたいと思っております。まず、議事に入ります前に、傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（植月） 本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、本審議会を公開といたしまして、この後傍聴希

望者が来られた場合につきましても、傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 いかがでしょうか。本日の審議につきましても特に支障になる事由はないと思われまますので公開といたしたいと思いますが、皆様よろしゅうございますか。

〔異議なし〕

○はい、ありがとうございました。それでは本日の会議の傍聴希望者に傍聴を許可したいと思えます。よろしくお願ひします。

○事務局（植月） はい。入っていただきます。

3 協議事項（1）岡山市長期構想（仮称）に係る答申（素案）について

○越宗会長 それではこれから議事を進めてまいります。協議事項1であります、「岡山市長期構想（仮称）に係る答申（素案）」について協議したいと思えますので、まずは事務局から説明をお願いします。

○事務局（門田） 総合計画課の門田でございます。これから説明をさせていただきます。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。

お手元に資料1があるかと思えます。長期構想に係る答申の素案ということでございませう。前回の審議会ではパワーポイントの資料で、新たな総合計画の方向性とか三つの将来都市像などをお示しし、ご議論していただきました。この資料1におきましては、前回の審議会で委員の皆様からいただいたご意見をもとに、一部修正も加えながら文章化をいたしております。ただ先ほど会長からもありましたように、前回お示しできていなかった部分ということで、「都市づくりの基本目標」や「都市づくりの10の基本方向」なども追加をいたしまして、答申素案という形で取りまとめをさせていただきます。

それでは説明に入らせていただきます。まず表紙をめくって1ページをご覧ください。「策定にあたって」というところ、現在、空欄にいたしております。このところは策定の背景とか考え方などを記述して、この計画、構想の意義とか性格付けというのをより明確化できないか、ちょっと検討してみたいと思っておりますので、答申にふさわしい内容になるようであれば、次回、案としてお示ししたいと思っております。

「長期構想の目的と期間」でございますが、二つ目の丸のところにありますように長期構想は28年度から37年度までの10年間でございませう。三つ目の丸にありますように、施策の具体的な展開につきましては、この構想のもとに中期計画というのを前期が28年度から32年度、後期が33年度から37年度ということで、5年間を見通したより具体的な計画というレベルのものをつくっていくことを想定いたしております。

「時代の潮流と課題認識」ということで、まず（1）の「時代の変化や要請」というと

ここで4項目を挙げております。一つ目は「人口減少問題と少子高齢化への対応」ということで、二番目の丸にありますように、構想期間中の平成32年には人口のピークを迎えて、岡山市は人口減少期に突入するということ。三番目の丸にありますように、それに伴って人口減少社会を見据えた都市構造の転換が求められるということでございます。二つ目は「地域経済の活性化、広域的役割の期待」ということで、人口の東京一極集中とか、東京圏等への人口流出に歯止めをかけて、若い世代の岡山への定着を図るためにも経済の活性化が不可欠であり、戦略的な産業振興が大きな課題となっております。二つ目の丸のところ、海外からの観光誘客、受け入れ力を高めることも重要になっております。三つ目の丸で、岡山市全体の発展にとって重要な中心市街地の活力、賑わいの相対的な低下という問題もございます。最後の丸ですが、拠点都市として広域的な視点に立った展開も求められております。

三つ目は「子育て・教育ニーズの拡大、若者や女性など市民の力の発揮」ということでございます。若い世代の結婚、妊娠、出産の希望が実現されるように、また若者、女性をはじめとする多様な人材が活躍しやすい環境づくりが求められております。また、子どもの学力の向上や不登校やいじめ等の問題行動への対応も大きな課題です。さらに行政ニーズの高度化、多様化に対応して、地縁組織、NPO、企業、大学等の多様な力を活かした地域課題の解決に向けた取り組みの一層の促進が求められております。

四つ目の項目としては「安全・安心に対する市民意識の高まり」ということで、巨大地震や台風、集中豪雨等に対して、意識が高まり、災害に強い都市づくりが求められております。また、高度成長期に集中的に整備された都市インフラの老朽化ということもありまして、適切なマネジメントが求められております。さらに高齢化が一層進展する中では、生涯を通じた健康づくりなども必要になってまいります。

3ページをご覧ください。(2)「市民の課題意識」ということで、ワークショップ等で浮かび上がってきた課題意識をここに書かせていただいております。岡山市らしさの発揮と発信ということで、岡山市の特徴をつくり、都市ブランド力を高めること、地域への愛着や関心を高め、対外的に発信していくといったことが、市民の課題意識からは伺えます。これまで必ずしも十分な活用、発信ができていない岡山市固有の自然、歴史、文化等の地域資源の価値を学び、まちづくりに活かしていく。そして岡山市を国内外に向けて積極的に発信していくことが重要となっております。

続きまして「岡山市の強みと特性」として、5項目を挙げております。内容の説明は省略いたしますが、項目だけ申し上げますと、一つ目は「高次の機能集積、中四国の交通のクロスポイント」、二つ目は「災害が少なく温暖な気候、豊富な医療・介護資源」、三つ目は「先人から引き継ぐ固有の歴史・伝統・文化」、四つ目は「第3次産業中心の産業構造と全国有数の農業都市」、そして最後が「活発な地域活動、世界をリードするESDの取り組み」ということで、これらの5項目、強みとか特性を最大限に生かしたまちづくりが求められていると感じております。

それでは5ページをご覧ください。「都市づくりの基本目標」で、新たに作り出した項目でございます。ここの説明にあたりまして、恐れ入りますが資料3という横長の「新たな総合計画の基本目標（コンセプト）」という配布資料をご覧いただきたいと思っております。

左側に都市ビジョン、右側に新たな総合計画、長期構想ということでお示ししております。平成21年の政令指定都市移行と同時に、現在の総合計画であります都市ビジョンがスタートしております。目指す都市像が「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」ということで、安定イメージの強い都市像を掲げてまちづくりを進めてまいりました。そうした中で、先ほど市民の課題意識の中で見ましたように、岡山市の特徴を高め、ブランド力を高めるとか、地域の愛着を高める、対外的に発信していくということが重要ではないかということ。それから、先ほどご説明いたしました人口減少問題をはじめとする時代の変化の要請などがございまして、こういったものを踏まえて新たな総合計画の基本コンセプトといたしましては、水と緑に象徴されるような住みやすさに磨きをかけるとともに、活力とか躍動感、動き、動的なイメージを追加していきたいと考えております。

具体的なテーマ案としましては、一番上にありますように「未来を拓く 躍動都市・おかやま」ということで今回お示させていただいております。こういったテーマのもとに後ほど説明させていただきますが、三つの都市像「経済・交流都市」「子育て・教育都市」「健康・環境都市」と、こういうものを設定して、都市像に基づく施策を実施することで、市民が変化を実感できるようなまちづくりを進めていきたい。また、まちの良さを国内外に発信することによって、市外の人からも訪れてみたい、住んでみたいと思われるようになり、そのことがまた市民の皆さんに変化を実感して頂くことによって、まちの活力や市民の岡山への愛着や誇りを高める、そんなまちづくりをめざしていけたらということでございます。新たな総合計画はそのための羅針盤になるようにしていきたいと考えております。

資料1の5ページのところに戻っていただけますでしょうか。いま申しましたように「未来を拓く 躍動都市・おかやま」をテーマとして掲げて、岡山市のさらなる発展と市民の満足度の向上を目指した都市づくりを進めていきたい。

基本目標の一つ目としては「都市の躍動感を創出する」ということで、都市部と周辺部の調和のとれた発展、国内外に開かれた活発な交流で、新たな都市の魅力を創造、発信し、市民がその魅力を自信を持って発信できる都市を目指す。市民一人ひとりの夢や希望を実現できるように、後押しをしていけるようなまちにしていきたいと考えております。二つ目の要素としまして「住みやすさに磨きをかける」ということで、安全・安心とか、恵まれた自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる暮らし、こうしたことに磨きをかけていきたいと考えております。最後に「市民と行政がともに変えていく」ということで、都市づくりの目標や課題を市民と行政が共有して、役割分担を明確にしながら、協働で取り組んでいく必要があると考えております。市役所も自己変革を進める必要がある。

この基本目標の実現に向けて、「3つの将来都市像」と「10の都市づくりの基本方向」を定めていきたいと考えております。

6ページをご覧ください。ここからが3つの将来都市像でございます。前回将来都市像については3つ提示させていただきましたので、変更点を中心に説明したいと思います。将来像Ⅰにつきまして、前回は「経済・拠点都市」ということで、産業、経済、都市交通分野を意識した都市像としてお示ししましたが、文化やスポーツも、むしろこういう活力系の都市像にひっくるめて位置付け、「経済・交流都市」が適切なのではないかというご意見を頂戴しました。私どももそのように考えまして、ご意見を受けまして、ここにありまじょうに「中四国をリードし、国内外から人・モノを呼び込む経済・交流都市」ということで、新たに今日、提示をさせていただいております。

7ページをご覧ください。将来像Ⅱでございます。先ほどの文化・スポーツがもともと将来像Ⅱのほうにありまして、「文化・教育都市」ということでお示ししておりました。それを将来像Ⅰに移したということで「子育て・教育都市」という端的な表現になっております。そしてインパクトのある表現が必要とのご意見もありましたので、「誰もがうらやむ充実の」という修飾をいたしまして、「誰もがうらやむ充実の子育て・教育都市」という都市像がどうだろうかという提示をさせていただいております。この都市像Ⅱの中には子育て・教育のほかに、E S Dとか市民協働、人権等の施策も、この子育て・教育都市像の中で位置付けていくことを想定いたしております。

将来像のⅢでございます。前回、「環境・福祉都市」ということでお示しさせていただきました。福祉は重要であるということは私ども十分認識しておりますが、より前向きな、動きのあるイメージを打ち出すということで、福祉を健康に変えてはどうかというご意見もあり、その意見を受けまして「全国から見ても傑出した安心を築く健康・環境都市」ということで、これもインパクトのある表現をということで提示をさせていただいておりますので、またご意見を頂戴できればと思っております。

8ページをご覧ください。「都市づくりの10の基本方向」でございます。これを説明する前に、お手元に資料4という「新たな総合計画の計画体系案」という配布資料があるかと思っております。ここにいまの基本目標を一番左に示して、次に将来都市像を3つ示しております。その都市像と対応関係が分かるようにしております。これを見ながら聞いていただければと思っております。

もう一つ未定稿資料2ということで、参考という形で、「都市づくりの10の基本方向」をお示しております。この参考の資料2の中の、基本方向の説明の中の青い枠囲みが、この答申の素案に採用されています。同じ文章が載っております。数値目標、政策の主な方向、オレンジの枠の部分というのは、参考ということで、この青い囲みの中の文章を考えるうえでは、具体の施策というのを念頭に置きながら考えていく必要があるということで整理をしたものでございます。あくまで現段階での整理でございますので、今後ここにつきましては、審議会の委員の皆様から具体的なご提案等もこれまでいただいておりますので、そういったご審議をさらにさせていただいて、この施策の部分を充実させて5年間の

中期計画の中に、こういう部分を入れ込んでいけたらというふうに考えてございます。

資料1のほうに戻ります。資料4を少し参照していただきながら、見ていただければと思います。まず8ページの基本方向1から3までが、先ほど申しました都市像Ⅰの「経済・交流都市」に対応した方向性ということでございます。基本方向1は「地域経済の活性化による、魅力と活力あふれるまちづくり」ということで、岡山市の持つ優れた立地条件や医療・介護等の集積の強みを活かして、地場産業の育成、強化、新産業の戦略的な創出・育成、企業立地等を進めていきたい。それから岡山城・岡山後樂園を中核とする歴史・文化ゾーン、表町エリア、岡山駅周辺エリアなどそれぞれの特性を活かす、そして回遊性を高める、それによって魅力と賑わいのある中心市街地の創出を図っていきたい。また、歴史・文化等の固有の地域資源を活かし、観光交流の促進や都市ブランドの向上等によって、国内外から多くの人が集い、交流するまちづくりを進めたいということでございます。

基本方向の2番「コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり」ということでございます。賑わいと交流の拠点となる都市部と、地域資源に恵まれた周辺地域とが調和し、それぞれの特性を活かしたコンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくりを進めていきたいと考えております。また、自動車への過度な依存から脱却し、公共交通を中心に自転車・自動車を最適に組み合わせた交通ネットワークを構築し、自動車優先から人優先のまちづくりを進めたいと考えております。

基本方向の3で、「歴史と文化が香り、誇りと一体感の持てるまちづくり」。岡山城、後樂園、吉備路等の岡山固有の歴史資産に子どもころから学び親しむとともに、その魅力を活かしつつ新たな文化を創造し、国内外に発信することで地域への誇りを高め、国内外から多くの人を訪れ、交流するまちづくりを進めたいと考えております。そして、文化・芸術・スポーツを振興することによって、様々な交流を促進し、一体感の持てるまちづくりを進めたいと考えております。

9ページをご覧ください。この9ページの基本方向4から6までが、先ほどの都市像の「子育て・教育都市」に対応した取り組みでございます。まず基本方向4の「安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり」ということで、誰もが安心して子どもを産み育てることができるよう、教育サービスの安定的な確保やワークライフバランスを推進するとともに、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進めます。また、困難を抱える子どもが健やかに育ち、自立できる環境づくりを進めます。さらに若者や女性が持つ潜在力や多様な視点を様々な場面で活かして、活力あふれる地域社会をつくっていきたくて考えております。

基本方向の5でございます。「つながる教育で未来を拓く人材を育むまちづくり」。実は先ほどの基本目標のところ「未来を拓く 躍動都市・おかやま」というのはどうかとご提言していて、単語が重なっておりますので、このところは再度表現については検討させていただきたいと思っております。この内容といたしましては、学びと育ちの連続性を大切にした「岡山型一貫教育」、それから学校、家庭、地域が連携した「岡山市地域協働

学校」によって、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を備えた「自立する子ども」を育成したい。また、市民の生涯にわたる豊かな学びを支援していきたいと考えております。

基本方向6です。「理解を深め合い、ともに築く市民主体のまちづくり」ということで、行政課題が高度化・多様化している中、E S Dの理念を活かしながら、行政と地域住民、企業、大学、N P O等の多様な主体がパートナーシップを深め、幅広い課題を解決していくまちづくりを進めたいと考えております。そして行政はもとより、民間レベルでの国際交流を推進しながら、グローバルな人材が育ち、外国人市民との交流が活発な国際的に開かれたまちづくりを進めたいと考えております。

では10ページをご覧ください。この10ページの基本方向7と8、次の11ページの基本方向9、ここが先ほどの3つ目の都市像「健康・環境都市」に対応した部分でございます。まず基本方向7は「住み慣れた地域で安心、健やかに暮らせるまちづくり」ということで、市民の健康寿命を延伸し、生涯現役で活躍できるまちづくりを進める。また、医療・介護が必要になっても住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を進める。さらに高齢者、障害者、生活困窮者等の社会参加や自立を支援していきたいと考えております。

基本方向8、「地域の力を活かした災害に強く安全・安心なまちづくり」でございます。災害に強い都市基盤の整備を進めるとともに、老朽化が懸念される都市インフラの効果的・効率的なマネジメントに取り組みます。併せて消防救急体制や地域の防災力の強化を図り、また犯罪・交通事故防止、消費者保護など、市民生活を守っていききたいと考えております。

11ページをご覧ください。基本方向の9でございます。「豊かな自然と調和した市民の手による持続可能なまちづくり」ということで、自然との触れあいを楽しめる環境づくりや、地域に根差した環境保護活動の輪を広げていきたい。そして低炭素型の都市の実現に向けて、再生可能エネルギーの導入、省エネルギー化などを進めていきたいと考えております。また、循環型社会の構築に向けた4 Rの取り組みに向けた、徹底した廃棄物の減量化・資源化を進めていきたいと考えております。

最後が基本方向10ということでございます。この基本方向10は、3つの都市像実現のベースとなる都市経営の視点から徹底しようとするものでございまして、「圏域をリードし、都市の持続的発展を支える都市経営」ということでお示しをしております。市役所の自己変革、官民の役割分担の見直し等、不断の行財政改革に取り組むということと、連携中枢都市圏の枠組みを活かして、圏域全体の発展を力強くリードし、さらには瀬戸内地域の活性化にも貢献したいということでございます。

以上が答申の素案についての説明でございます。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

○越宗会長 ありがとうございます。資料1、2、3をもとにご説明をいただきました。

今日は答申の素案、あるいは都市づくりの10の基本方向ということで、これまでの議論の中で、委員の皆様からのご提案、あるいはご意見を踏まえて、新たに項目として加えた、文言等でご指摘のあったものをここに入れ込んだということであろうかと思えます。思い当たることが多々おありになったのではないかと思います。

いま説明がありましたように、まず資料1は前段とさらには都市づくりの基本目標、将来都市像、都市づくりの10の基本方向ということになります。資料2は、そうしたもののバックデータとして施策のおもな方向ということで、いろいろ書き込まれていますけれども、ここに関してはより具体的な施策をいまの段階を整理されたということで、すでに事業化に向けて動いているようなものも含まれていると思えますし、委員の皆さんのご提案も入っていると思えます。これは今後の中期計画の作成の議論の中で、より今後の政策の方向というのは充実させていく。そしてできあがったものを中期計画として策定していくというお考えということでもあります。

施策の主な方向、中期計画に盛り込む内容でも、お気付きの点のご意見として述べていただいているのですが、今日は資料1の大きな課題認識、強み特性、都市づくりの基本目標、将来都市像、都市づくりの10の基本方向につきまして、ここで書かれている文章の考え方、あるいは細かい表現、そうしたものを中心に皆様のほうから、それぞれご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。そういう進め方でよろしゅうございますか。

○大森市長 併せて資料3、これがいわゆる今回の計画の全体のストーリーと申しますか、これを最終的に資料1にどうドッキングするかというのは、まだ決めていないのですけれども、これから市民の方にご説明していく時に文章だけでは中々分かりづらいので、こういうペーパーを持って説明をしていくことになるのかなと思っています。ですから、できれば資料1と資料3を併せてご議論をいただきたい。

○越宗会長 はい。大森市長さんのご注文でありますので、ぜひそのように委員の皆様にはお願いしたいと思います。それでは、これからいろいろご意見をいただきたいと思えます。どうぞ。杉山委員さん。

○杉山委員 経営学というのは経済学の僕みたいな位置づけが日本では行われていますけれども、非常に重要な学問だと思っています。通常、経営学では最初に外部要因分析をやり、PEST分析あるいはPESTEL分析のように環境と法律というものを付加して、マクロ的にどういう状況なのかということを考えていかないといけない。いまごろになって、そんなことを言ってどうするのかと言われるかもしれませんが、外部要因分析が不足しているように感じます。答申素案は非常によくできた文章で、構成も多分40年くらいの年月をかけて全国の行政の人たちが一生懸命考えて作りあげたものなので、ほとんどカバーされています。ここまで議論してきたことは非常に細かく丹念に調査をした内部要因の

分析にしか過ぎないと思います。2020年にかけて世界は大きく変化するだろう。グローバル化と情報化という要素をもう少し細かくみて行く必要があるように思います。グローバル化については文章を変えていただいたので少しは入っているんですけども、情報化についてはまったく抜けているように思います。

すでに東京国際モーターショーでも発表されているように、2020年には車は自動運転になります。恐らく自動運転になったとたん結構交通事故が多くなって、最初は混乱すると思いますけど、近い将来、車は自動運転になり、交通渋滞はゼロになる時代が非常に近い将来やってきそうです。オックスフォード大学のマイケル・オズボーンが書いた非常に有名な論文では、アメリカの職種702を分析したら47%がなくなってしまうとある。おそらくスーパーのレジはなくなります。おそらく市役所の受付窓口もなくなります。トラックやバスは自動運転になります。

そういう時代のあるべき行政の効率化、そのためにICTとどういうふうに取り組んでいくのかということがこの中にはまったく書かれていない。なので、もうちょっとそういうことを入れておいたほうがいいのではないかなというふうに思っています。岡山をちゃんと売り出すためにいったい何をやったらいいのかというので、中期計画でいくと、例えば岡山駅の近辺はWi-Fiが無料で使えるとか、JRと近くのお店に寄付をさせていただいて、Wi-Fiの施設を岡山駅に設置し、その中で岡山市のPRも流れるとか、そういうことをぜひ考えていかないといけないと思っています。結節点、結節点と言葉だけで言っても、時代に沿った形に変化しなければメリットも享受できないのではないかと考えています。加えて、行政の効率化、サービスの向上ということも、ICTを取り入れて進めていっていただきたいと強く思います。従来通りのことでは変わっていかないと思っています。

最後に、テーマ案についてケチ付けるわけじゃないんですけども、「未来を拓く 躍動都市・おかやま」について意見を述べさせていただきます。確かにいままでディスカッションしてきたので意図はよく分かります。「静から動へ」という意図もよく分かりますが、岡山を他の都市の名前に変えても多分まったく変わらない。本当にこれが岡山にふさわしいのかなというのと、もう少し知恵を出したほうがいいのではないのかなというふうに感じています。以上です。

○越宗会長 素晴らしい素案になっているけれども、こういうことを付加したほうがいいのかという建設的なご意見です。また、より具体的な案、テーマ案を含めてというのは、これまで審議会でも各委員さんからどんどん出てきた注文でございました。何かありますか、いまの杉山委員さんのお話に対して。

○事務局（門田） 貴重なご意見ありがとうございます。質問のお答えにはならないかもしれませんが、グローバル化のほうは、資料1の答申案の2ページの最初の丸のあたりに

一応、お気づきのことと思いますが、書かせていただいていますことと、それからこの答申案の中には明確に示していないかもしれませんが、基本方向6の「理解を深め合い、ともに築く市民主体のまちづくり」のところでも、グローバルな人材が育つまちづくりを進めたいということで、資料2をご覧いただくと11ページのところには「国際交流とグローバル人材の育成」という項目も設けております。

それから情報化のほうでございますが、これは資料2の19ページの一番下のところで、行政の行財政面のところで、「民間活力の一層の活用とともに、このICTの利用による業務改革を進める」という方針を打ち出したいというふうには考えております。

○越宗会長 はい。

○大森市長 入っていることは入っているという話ではありますが、全体のバランスからすると、杉山先生が言われるようにグローバル化と情報化がちょっと不足しているのではないかと私も感じます。それと、このテーマ案は、内部でみんなで結構議論したところなんです。それから前回、越宗会長から厳しく言われましたが、もう少し岡山の位置取り、スタンディングポジションといいますでしょうか、それが分かるような表現を考えているんですが、とりあえずの知恵出しがこんな感じであります。杉山先生、具体的にこんなのがいいというのがあれば、ここで言うていただいたらいいんじゃないかなど。また次の機会に案を出させていただいて、みんなで議論をしていただければと思います。

○越宗会長 そうですね。今日の議論を次に生かすということなんですけれども、表現というか案を皆さんがいろいろお考えいただいているというのは本当によく分かります。テーマ案につきましては、これから皆さんからご意見が出てくると思いますが、ここは一つ岡山を印象づけるものが欲しいなど。これからさらに練り上げるんでしょうけど。

○大森市長 とりあえず今回は、いままでの水と緑を活かしながら、動きをどうやって市民に示していくかという視点でテーマ案を考えている。縦軸から見ると変化は表れているのかも分からないですけども、全国各地の横軸から見ると何の変哲もないということになるのかもしれませんが。ご指摘はその通りでありますので、ちょっと我々の知恵だけでは。

○越宗会長 そうですね。これでは岡山をどこに置き換えても通用するのではないかというご意見ですけども、そうなるとそれこそ、市長が言われた伝説の桃太郎市くらいにしないと岡山が出てこないかもしれません。いずれにしても皆さんのご意見を踏まえ、また皆さんで知恵を出していくことになると思います。まだ何かありますか、杉山委員さん。

○杉山委員 一つだけ補足させていただきます。実は僕は津山市の委員もしていて、津山は「開花都市宣言」というのを作りました。開花はまさに花が開くことですが、津山はご存じのように桜の木が多いので、市民の皆さんは開花というと桜を想起するので、ある意味では非常にうまいキャッチフレーズを考えたのではないかなと思っています。ただし、僕は最初にその提案が出た時は、開花って、3月や4月になったら花が自然に咲くじゃないか、津山市としての意思が入っていないのではないかな。だから、そこに政策・施策を実施する意思を表すために戦略ということばを入れたらどうかと提案しました。結局、「開花都市宣言」という形にしてその下に「開花戦略プログラム1」というような形でまとめあげました。そういう意味ではうまくいったのかなと思っていますが、岡山のテーマづくりが中々難しいのはよく分かっています。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。活発な議論になりましたが、どうぞ、続けて。はい、梶谷さん。

○梶谷委員 資料3についてなんですが、「市民が変化を実感」というのはすごく受け身なんです。躍動などへつなげるのであれば、「市民が変化を主導」くらいにしてほしいな、と。今日の説明を聞いて、3つの都市像の後に都市経営のあり方が入れてありましたが、ここにも都市経営をどうするかということを入れたほうがいいのではないかな。そして、いままで都市経営はほとんど行政が行政の中だけでやっていました。どちらかというとな国のほうを見ながら、国の政策をどうやって地域に展開するかで行政はやってきていました。岡山は変えます。あくまで市民と一緒に行政はやってつくっていきます。そのための仕組みをつくって行って、それによって、この3つの都市像を実現しますということを入れていただくと、市民が変化の主導につながるのかな、と。都市像として3つにプラス、それを実現するための都市経営のあり方、ここで思い切って岡山市を変えますよということを出していただくと、非常に躍動感につながるのかな、と。躍動というのはやはり人がつくるもので、それは市民一人ひとりが躍動しないと出てこないと思います。そんなまちをつくることに市民一人ひとりがかかわって、岡山を変えていけるという、そんなイメージが生まれてくると面白いのではないかな、と。市民が受け身だと愛着とか誇りが持てないのかと思います。

○越宗会長 何とかして岡山を躍動させたいという梶谷委員の気持ちのこもった意見でしたが。はい、どうぞ。

○大森市長 多分梶谷さんがおっしゃっていることは、資料3の黄色の文章のところではないかと、市民がという主語は、市民がこういう施策を実施していく。それが主導ですよね。そして、訪れてみたい、住んでみたいというのは外部の人間。それで、この矢印は向

きが違うんですけど、つまり市民が施策を実施し、市民が発信をしていく、その結果として変化を市民が実感するというので、ここは変化の実感なんですよ。その前の黄色の文書に主語がないというのは確におっしゃる通り。ちょっと考えてみます。

○越宗会長 決して受け身ではない。主語の文言がここに入るということで、よろしいですか。それでは、どなたかどうぞ。

○梶谷委員 次に素案のほうなのですが、「岡山型で教育力を高める」とあるのですが、岡山型を入れなきゃいけないものですかね。なんかすごく岡山市の教育委員会の内輪用語にこだわりすぎているような気がします。もっと一般的な市民にも分かりやすい表現にしてもらったほうが、アピールがあるのではないのかなと。すごく行政の内部用語のような感じがして、逆に「学校、家庭、地域が協働して教育力を高める教育を推進し」でもいいのかなど。岡山型は脱皮したほうがいいのではないかなと。

○越宗会長 私もその部分は感じて「岡山型の教育」とは一体何なのだろうかと。その前に「学校、家庭、地域社会が協働して教育力を高める」と付いていて、それが一般的だから岡山型というようなことになったのだらうと思いますが、岡山型と訴えるのであれば単なる修辭ではなくて、やはりもう少し踏み込んだモデルの提示が必要だらうと思いました。はい、どうぞ。市長さん。

○大森市長 まったく同感です。これについては教育委員会とも話をして、具体的に言えるものがあるのなら、そのままの表現にして、またご説明をさせていただきたいと思います。まだまだ抽象的でそういうものがないのであれば、模索するということはあるでしょうから、いまの段階での表現というものを考えていきたい。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。

○梶谷委員 それに関連して、教育が行政の枠内で、どうしても義務教育課程くらいしか見えてないと思うんですね。岡山の教育であれば、せつかくこれだけ大学が岡山市に立地しているのだから、いかに大学や、高校は県立かも分かりませんが、そういうところと一体となって、どう教育をするかみたいなものがあればいいのではないかと。大学と連携して、しっかりと義務教育段階からつながりますよということは、中々ほかの地域ではできないのではないかと。ここにも大勢の大学の先生がおられますけど、そのへんのところまで突っ込んでいただくと、「誰もがうらやむ子育て・教育都市」になる。教育都市の中に、この中に大学を活かすことが全然入っていないのはもったいないような気がするんです。

○越宗会長 はい、それでは、どなたか。はい、どうぞ。

○藤原委員 教育についてちょっとお尋ねしたいことがございます。岡山県の小学校、中学校は、全国試験の平均点が最下位に近い状態です。私が不思議に思うのは、なぜそういう状態にあるのに「岡山型一貫教育」という言葉が出てくるのか。平均点が全国の上位ベスト10くらいに入っているのであれば「岡山型一貫教育」という表現もいいかと思いますが、いまそれよりも子どもたちの基本的な能力をいかにあげるかということのほうに力を入れていただかないといけません。こういう表現では絵に描いた餅で、平均点が低い学校に対して具体的にどのように指導していくのか、そういうことにもう少し力を入れていただければと思います。

○越宗会長 はい。

○大森市長 梶谷さんがおっしゃっている大学の話はですね、昨日たまたまですけど、大学の先生方、阿部先生も浜田先生も一緒に、大学都市などいろんな議論の場があったのですが、実は岡山市は人口当たりの大学・短大数は三大都市圏を除く地方の政令市10都市中ナンバーワンで、学生数も第3位。そういう面では岡山市は非常に高等教育機関に恵まれている都市だろうと思います。そういう意味で、教育で大学等と一緒に何をやっていくのかという議論はやっていかなければならないと思っているのですが、梶谷さんの提案については別途議論させていただきたいと思います。この総合計画で表現するのは、やはり藤原さんがおっしゃった小中学校が様々な面においてちょっとおかしくなっている点をどうしていくのか。別途、総合教育会議で各論を詰めさせていただいているが、それらをこの総合計画の段階で、どういうベクトルを整理していくかということではないかなと。藤原さんがおっしゃっているように問題点は非常に多いので、若干ここでは抽象的にならざるを得ないかもしれないけれども、そこを我々としてどう表していくのかということをもう1回見直していかなければならないと思っています。格好いいことばかり言って、実際には全然できていないではないかということに近いのだろうと思うので、ちょっと考えてみたいと思います。

○越宗会長 そうですね。どうぞ。

○阿部典子委員 私のような立場としては、本当に実際にどうやって進めていけるかなということを考えながら内容を見させていただきました。岡山市の強み、例えばESDとか、公民館活動とか、NPOの活動とか、連合町内会の取り組みを、これからはより実践的に安全・安心をつくる、福祉とか医療とかを支える担い手にも活用できなければいけない。先ほど梶谷さんがおっしゃられた市民主導という点で、これからどこを拠点にして、どう

連携して進めていくのかということが、これから一番考えなければいけないところなのかなと思って聞かせていただきました。

その意味で前も示していただいた将来都市像の中の1で、6ページの下の方ですけど、周辺市町村との広域連携は右上のほうに連携の矢印が入っていますが、周辺部の小さな拠点、集落というところと周辺市町が直接つながるような、そういう連携も必要ではないかと思います。広域と広域の大きな枠組みだけではなくて、市町村の隣り合う境を超えた生活圈や移動など、さきほど車の自動運転とかの話も出ていましたけれども、これからそういう細かな拠点をつくって、それをつなぐことを考えると、先ほど申し上げた表現にさせていただいているといいかなと、細かいところですけど感じました。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。

○大森市長 ご指摘の通りだと思います。絵作りがまだ下手なので、その意識は持っていますから、ちょっと考えてみます。

○越宗会長 いまの広域の部分で言いますと、私も感じたのですが、資料1の2ページの時代の潮流と課題認識のところですが、2ページの上から四つ目の丸に「瀬戸内海に面した拠点都市として、広域的視点に立った施策展開が求められる」とあります。これは多分岡山、広島、高松、松山の県都4市の連携というものを考えられての表現だと思うのですが、やはり岡山市は連携中枢都市圏としての役割が期待されていて、岡山県内の中国北部との連携も期待されていると思うので、やはり「瀬戸内海に面し」だけだとちょっと足りないのではないか、と。岡山市の現状、あるいはこれからの照らして、仮に文言で入れるとすれば「瀬戸内海に面し、内陸部でも隣接する拠点都市として、広域的な視点に立つ」としたほうが適切ではないか、実態に即しているのではないかというのを感じました。それでは、ほかに。はい、阿部先生。

○阿部宏史委員 一点は先ほど杉山先生からもご指摘があった点ですけど、グローバルという視点です。資料1を見ていますとグローバルな人材育成ということで、少しちりばめているというお話だったのでですけども、これからのことを考えると岡山市クラスの都市になると世界の中で、いかに存在感を示していくかということになる。その戦略を示すことが大事ではないかなという気がするんですね。その観点からいきますと、ここに書かれているグローバル化というのは、これまでの視点をそのまま踏襲したような形で、まずは地域の中でしっかりとした素地つくって、それから世界へ飛び出していこうと、そんなニュアンスなのですが、むしろ岡山市が世界に誇れるというものを発掘して、見出して、それでダイレクトに他の地域とか世界の都市につながっていくような、そういう戦略を持たないと中々都市自体の認知度を高めて、発展につなげていく、まさにここに書かれている

躍動にならないのではないかなという気がします。もう少し踏み込んだ何か、グローバル化という意味でもっと大胆なことを書いていただけるといいのかなという気がしました。では、具体的に何なんだと言われると困ってしまうのですが、一つは昨年、E S Dの世界大会を開きましたけど、E S Dの世界大会というのは国内でいうと名古屋でありますけど、あまり注目もされなかったことで、それに岡山市が乗り出して、岡山ならE S Dがあるということで国際社会にアピールできたわけですよね。だから、そういう取り組みをもっと積極的に展開していく必要があるのではないかなという気がします。

E S Dに関連したことですけれども、全体に書かれているE S Dの割合が、深くかかわってきましたので、少し些末な感じがします。例えば資料1の7ページ目で「市民主体の都市をつくる」というところに、E S Dの理念に基づきというふうに書かれているのですが、実はE S Dの本質的に重要なところは学校教育の中で持続可能な社会を教えて、その担い手をつくるということがあると思います。ですから教育力を高めるということにも当然入るべきだと思います。それからもう一つ、特に環境面での意義というのも大きいですから、例えば11ページの「持続可能なまちづくり」の中で、低炭素型の都市とかいろいろなことを書かれているのですが、この中でも少し書いていただいたほうがいいのかなと。つまり岡山市のいろいろな市政全般の中にE S Dの理念が一つのベースとして入っていることを、もう少し明確に書いていただいたほうがいいのかなというふうに思います。それからE S Dという横文字がいきなり出てくるので、一般市民にはまだまだ浸透していない部分がありますので、そのあたりも分かりやすくするように記述していただければと思います。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

○片山委員 9ページ目の基本方向6のところ、先ほどグローバルな人材などの話がありましたが、ちょっと小さなことなのですが、6の一番下に「グローバルな人材が育ち、外国人市民との交流が活発な国際的に開かれたまちづくりを進めます」と書いてあります。「外国人市民との交流」という、この「交流」という言葉なのですが、これはお客さんが来て交流するという感じがします。外国人市民は生活者として岡山市に住むわけですので、「交流」ではなくて、適当な言葉が見つからないのですが、「共生」「協働」という言葉がいいかなという気がいたします。資料2で中期計画の細かいところを見ますと、中に「共生」という言葉がちゃんと入っております。こちらのほうに「共生」と入っていれば、資料1のここは交流でもいいのかなと悩んでいます。ただ、外国人市民は決してお客様ではないということを認識して、一緒に岡山市をつくっていく人たちだという認識を持ちたいと思います。

それからもう一つは、先ほど市長さんが図をもって皆さんに説明したいとおっしゃられてまして、本当にこれはいいことじゃないかなと思います。と申しますのは、資料1の4の

将来都市像のところ、「コンパクト化とネットワーク化」「多様性と連携」の図が書いてありますが、これは上の文字を見るよりは、この図を見たほうが一目瞭然で分かりやすいです。それから、資料3も内容についてはいろいろ議論もあるかもしれませんが、全体としては分かりやすい。「静から動へ」、新しくどんどん変わっていく、変化していく世の中に対して、動、躍動する、動くということで対応しなければいけないのではないかということがよく分かると思います。ですから、このように図で表すというのは大変重要ではないかなと思います。岡山プレゼンテーション教育学会というのが、この4月に発足しました。先日、学会で多摩大学の学長の久恒教授が「図解コミュニケーションでプレゼン教育に革命を」というタイトルで講演をされて、それを伺いました。確かに図解でみますと非常に分かりやすく、そして記憶に残りやすいと思います。言葉と図表の組み合わせもいいのですが、私たちに説明していただく資料の中に図解をどんどん入れていただくとより分かりやすくなるという気がいたしました。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。はい、清板委員さん。

○清板委員 まず資料1ですが、1ページに「時代の潮流と課題認識」とあります。その下の「人口減少問題と少子高齢化への対応」のところは、明らかに課題が取り上げられているのですが、その下にあるものに関しては、必ずしも課題ではなくて、それを受けての対策というか、方向性に割と内容が移ってしまっていて、岡山市が抱えている課題はどのような問題であるという表現が少し曖昧になっている気がします。課題の部分は課題をリアルに表現するようにしたほうが課題として分かるのではないかという気がしました。例えば2ページの真ん中にある「子育て・教育ニーズの拡大」に関しても、先ほど問題として挙げられたことで「子どもの学力の向上や不登校やいじめの問題行動の対応が課題となる」と書いてあるのですが、表現の仕方というのでしょうか、慎重に表現する必要はあると思うのですが、一般的にそんなことが問題になっているよねという受け取り方しかしていないのかという感じがします。岡山市におけるこういう問題は誰もが認識していることですから、市としても問題をリアルにきちんととらえているというリアル感をもう少し加えた表現をしたほうがいいのではないかと思います。それは、その下の安全などに関するものとか、岡山らしさについても、問題解決の話に少し移ってしまっているような感じがします。それは、その先に述べることなので、ここではもう少し課題をリアルに受け止めているということを表示したいなという気がしました。

それから教育にかかわることで、基本方向の5のところですが、これは資料2のほうを見たいと思うのですが、まず水色の枠の中には「学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら、連携して」というふうに述べているのですが、政策の主な方向の一つ目、9ページの下枠ですが、ここを読んでいくと、ほとんど主語が学校がすることというふうになっているように思われます。主語がはっきり書いてありませんけれども、学校がこれ

をするんだなど。学校が家庭と連携してとか、学校の力をもっと磨きをかけていきます、教師をもっと有能にしていきますという方向性がどうも強くあるような気がします。教師にすべてを盛り込むというのは大変困難なことですし、教師の負担感が重くなっているところにこそ、いまの子どもたちの問題も広がってきているんじゃないかと思うところもあります。ですので、教師にとかあるいは学校に大方のことを期待して、学校教育を頑張っていくから地域も協力してください、地域の人材を導入するとか教員だけではない多様な人々が学校現場に参加するだけではなくて、子どもの教育に、子どもの育ちに、それをする人たちを巻き込んでいくというか、参加していただくではなくて、主体性を持って参加していく。その仕掛けを考えていくというふうな表現とかスタンスがもう少し盛り込まれたらと思います。具体的にどういうふうにするということが、自分の中では固まっていないのですが、そのような気がしました。

それからもう一つ、いまのところの、水色の枠の冒頭に「学びと育ちの連続性を大切にしたい」とありますが、これは「育ちと学びの連続性」だと思います。子どもを産んで、育てて、そして、その子たちが教育の中に入っていくので、育ちと学びの連続性で、まず育ちがベースと表現したほうがいいのではないかと思います。

それから細かいことですが、資料2の10ページの(2)の二つ目の黒丸の後半ですが、「特に若手の教職員の育成に重点を置き、指導方法の技術や教育に対する思いを伝える仕組みをつくりたい」という、教育に対する思いを伝えるのは、若手の教員に伝えるということだと思うのですが、誰が伝えるのだろうかと思いました。ここも先ほどの教師を育てていくという、教育現場をより磨きをかけていくと、そういう方向性の表現の一つになっているわけですが、それにしても、ここの文章は思いを伝える主体は誰なのか、文章のうえで思いました。以上です。

○越宗会長 はい、何か。はい、どうぞ。

○事務局（門田） 貴重なご意見、ありがとうございます。9ページの子どもの育成のところは、ここはおっしゃるようにどちらかというと学校現場に着目して、その施策として、どういうものがあるかということを中心に考えさせていただいておまして、10ページの(2)のところは学校だけではなくて、家庭や地域が協働してということで、このあたりに先生がおっしゃったような要素を、もし必要があれば追加していくというイメージでとらえて整理しているところがございます。それから教職員の思いを伝えるのは、先輩教員がということでございます。

○清板委員 はい、了解しました。もう一度よく読み直してみますが、もしそうだとしたら、(2)の二つ目の黒丸の内容はむしろ1のほうに入るのでしょうか。教育現場の充実、教員の養成を高めるということだと、1のほうにまとめて学校現場ではというようにした

ほうが分かりやすいですね。

○越宗会長 よろしいですか。高旗委員さん。

○高旗委員 よろしくお願ひいたします。本当に丁寧にまとめていただいて、デザインもこういう形にするとすっと頭に入ってくるんだなと思ひながら資料のほうを拝見しました。勉強になりました。ありがとうございました。私からは資料1の6ページと7ページになります。将来都市像を3つ掲げておられますが、この3つのそれぞれの文章を拝見した時に、分かりやすさということで、いろいろ吟味されて、こういう文章になったのかなと思ひますが、そういう面でちょっと俗っぽくなりすぎているかなという感じを受けます。例えば将来都市像Ⅰの文章では「呼び込む」とか、将来都市像Ⅱの場合では「誰もがうらやむ」とか、Ⅲでは「傑出した」とかですね。そのへんが、掲げる都市像、将来像を表す言葉としては、ちょっと俗かなという気がしました。

そういうふうに言うと代案を絶対に言わなきゃなと思ひて一生懸命考へて、例えばⅠの場合、「中四国をリードし」という言葉がことさら要るのかということが一つありました。

「国内外から人・モノを」、そこは使うとすると、本当にすいません、僭越な言い方になりますが、「国内外の人・モノを結び、新たな価値を創造する経済・交流都市」ですね。「新たな価値を創造する」というところを強調したいということです。Ⅱですけれども、さすがに「誰もがうらやむ」というのは結果論かもしれないですけど、目的ではなかろうと思ひますので、非常にストレートな言い方にしかならなかったのですが、例えば「未来の担い手を育む安心充実の子育て・教育都市」。ちょっと平板な言い方かなと自分でもあまりいいとは思ひていませんが、そういうふうに思ひました。Ⅲを一生懸命考へたのですが、中々出てこなかったもので、ここについてはご専門の方にご意見をいただければと思ひます。いずれにしても、分かりやすくであると同時に、ちょっと志の高いといひますか、そういうところを目指していただければと思ひました。以上です。

○越宗会長 はい、市長どうぞ。

○大森市長 将来都市像の方向性、三点をどう表現するか。これはぜひ議論をしていただきたいと思ひているんですが、実はここは結構、我々の中でも案は出たんです。一つ我々で提起したのは、どの都市でも言えるような表現はやめようということです。例えばⅠは「中四国をリードし」という言葉があることによって、これを言える都市は中四国の中でも本当に限られてくる。「呼び込む」というのは確かに先生がおっしゃる通りかもしれませんが、Ⅱの「誰もがうらやむ」というのは稚拙かもしれないんですけども、単に未来をうんぬんというよりは、同じ地盤の中で、岡山は若干上にあるんじゃないかという意味があります。将来像Ⅲは、みんなから嫌われたんですが、私の表現なんです。もっと建設的

なものが多かったんですが、ここは前、越宗会長が「西日本一の」ということを言われた。それを全国というオーダーにして、傑出したというのはどういうことかという、本当に岡山というのは自信がないんです。だからこそいま、東京の人たちが定住したいところでは、岡山は山梨、長野に続いて三番目である。我々は軽井沢も持っていないし、山中湖も持っていない。そういう岡山がこの地位にいるということをどう表現していくかという中で、この表現にした。一昨日の話で、そこからもっといい知恵があればということだったんですけど、それ以上の知恵がなくて、ここに表現をしている。言いたいのは岡山だから言えるストーリーを、この中に書こうとしているということなんです。そういう設定がいいかどうかというのは、またご議論いただきたいということと、例えばそれがいいとすれば、どういう表現がいいか、というような話になってくるのかなという気がいたします。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。高旗先生がおっしゃるように格調といいますか、そういう部分と岡山らしさ、岡山ならではの言葉や、印象の強いことを両立させればいいんでしょうけども。やはりこれは市民の皆さんの頭の中にずっと入って、市民の皆さんの口からも出てくるようなものがベストだと思います。委員の皆さんも何かアイデアがありましたら、次回の会議までにいくつでも作っていただきたい。私自身は岡山市さんにしては中々踏み込んだ表現をされているなと感じましたけれども、まだまだもう少し考えてみたいという思いもございます。ぜひ、これはいまご意見があればおっしゃっていただきたい。はい、どうぞ。

○阿部典子委員 すいません、意見があるわけではないので、ごめんなさい。いまおっしゃられたように、ここはすごく突っ込んだ言い方をされていて良いなと最初聞いた時に思いました。この将来都市像の言葉とか、テーマ案ですけども、これを市民が使うようになるのか。例えば市民が使うとしたら、どういう場面で言われるようになるのか。新聞に出るのか。他の地域にどんどん出て行くようなものなのか。そのあたりのイメージを何かお持ちだったならば、教えていただきたい。もう少し考えるヒントになればと思うのですが。

○越宗会長 はい、市長どうですか。

○大森市長 私としては、多分市民の方々の一つひとつの各論まではあまりご覧にならないのではないかなと思っています。なので、これから岡山市としてどういう方向に行こうとしているのかということ強調して、大きな方向性を説明していかなければならないのではないかなと思っています。これができれば、例えばシンポジウム等々もやっていけないと思いませんし、山陽新聞にもぜひ書いていただければと思うのです。

が、そこでは見出しというか、そういう部分が非常に大事なかなと思っています。したがって、何を訴えていくのか、将来都市像Ⅰは「経済・交流都市」と書いていますけれども、いまおっしゃられたような「新たな価値を創造する」とか、また「中四国をリードする」というような表現を入れたほうがいいかもしれない。見出しの表現で市民に我々が抱いているイメージを伝えていくというのが一番重要なのかなと思っています。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○小松委員 高旗委員からご意見がありまして、自分自身と共通する部分があったものですから、安心して発言させてもらいます。資料1を読ませていただいて、私が言ったことなんかを取り込んでいただいて、分かりやすくなっていると評価していたのですが、激しいダメ出しとか宿題とかいっぱい出てきたので、そういうことを言わないとダメなのかなと思ったのですが。資料1で申しますと、細かいことしか言えないんですけども、5ページの下から4行目に「ともに考え、本気で行動し」とある。先ほどの品格とかそういう問題から言いますと「本気で行動し」とここで書くのは言葉としてはいかがかなと。要するに「ともに考え、ともに行動し、協働で取り組んでいく」ということですから、ちょっと考えたらどうかな、と。それから6ページの真ん中の上あたりの括弧に「地域とつなぎ、魅力をつくる」とある。「地域を」なのか「地域と」、岡山市と周辺の地域をつなぎなのか、ちょっと「と」の意味がよく分からなかった、日本語としてですね。こういう意味ですよと教えていただければありがたい。

実はここからが私の申し上げたいことですが、私は前々から言っておりますように、グローバル化、グローバル化というのが当たり前のように言われているのが反対です。自分たちの足元を見た時に、例えば子どもの貧困であるとか、あるいは高齢者の老後破産とか、あるいは下流老人、これは本のタイトルですけども、私が言っているのは。それから20代の非正規雇用が48%を超えている。20代の人から聞いた話ですけども、岡山はどうか知りませんが、全国の話ですけども、4割を超えている。これは明らかに下流老人というか、60、70歳を過ぎてから、非常に生活が苦しくなる予備軍だと私は思っています。このことは岡山には関係ないとは一切思っておりません。そういう状況のほうにもう少し眼差しを向けていくべきではないのか。世界に羽ばたくとかそういう以前に、自分の足元をしっかり固めていく。ある意味では古典的な言葉ですけども、土着というか、パトリオットというか、愛郷心というか、そういうことではなからうか。先ほど将来の予測として、市役所のカウンターに人がいなくなる。とんでもない時代ですよ、はっきり言って。フェイス・トゥ・フェイスがやはり基本ではなからうかと。もしそういうのが当たり前というのなら、そういうことはアメリカに任せておけばいい。日本は、あるいは岡山は真似をする必要はまったくないという気持ちを持っております。それを書き込んでくださいとは申し上げません。宿題がたくさん出ておりますから。ただ、施策を実施をさ

れる時に、そういう弱者、最近ではLGBTですか、性的マイノリティ、そういう方々への眼差しを忘れない行政をやっていただくというハートだけは、文章に起こさなくても持っていたきたいなと申し上げます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。小松先生から、なんというか、根本的な哲学を伺ったような気がします。では塩見委員さん。

○塩見委員 ありがとうございます。将来都市像のⅢですが、市長さんの発案とは思わず私が単純に考えたのは、「全国から見ても傑出した」というのがちょっと回りくどい言い方なので、単純ですが「日本一の安心を築く」という言葉を考えました。それから資料3ですけれども、これを市民の方に見ていただいて説明するとなった時に、高齢者・障害者は皆さん、自立して生きたいというのは確かなことですが、そこから漏れる方のセーフティネットや福祉という言葉がなくなることで、市民の方は非常に不安を覚えるのではないかと。健康は特に必要なわけですが。健康宣言21もあるし、健幸ポイントもそうなのですが、やはりどうなのかということが疑問に思います。中期計画の資料を見ますと、その中にセーフティネットのことを書いてくださっているので、よく読めば分かるのですけれども、ぱっと市民がこれを見た時に、どうなのかなということを思います。それから資料1でそのことに関連してのことですけれども、10ページの最後の段落に「高齢者、障害者、生活困窮者が、社会を構成する一員として」とありますが、「社会を構成する一員」は当たり前なことなので、改めてここで言う必要はないのではないかなという気がいたします。「生活困窮者が、地域から孤立することなく、それぞれの能力を發揮しながら、自立して暮らし続けられるよう、地域全体で支えながら社会参加や自立を促進するとともに、福祉サービス」と、ここに福祉を少し入れてほしいなと思っております。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。それでは、市長どうぞ。

○大森市長 大体よく分かりました。「日本一の」というのは、分かりやすいのはおっしゃる通りなんです。時々、「日本一の」と言うことが各自治体でもあるんですけれども、岡山の場合、地震ということでは確かに少ないですけれども、犯罪総数というのは他の政令市に比べて決して少ないわけではない。あと健康寿命に関しても男性18位、女性15位というところにあります。全体から見ると確かに安心感はあると思うんですけど、そこで「日本一」と言った時に、市民の方々がどう考えてそれを言われるかなと思った時、ちょっと強いという感じがします。決して私、自分が考えたから固執しているわけではまったくありませんので、いい言葉をぜひ教えていただければと思うところです。将来都市像Ⅰも同じように「中四国をリードし」と、リードという言葉になっているんです。我々、広島との関係でもいろいろ頑張っていけないといけないことが多いにあると思うんですが、やは

り現実も踏まえながら考える必要がある。ただ実際、岡山での中四国での拠点化というのはどんどん進んでいる。それを伸ばしていかないといけない。そういうイメージも含めて「中四国をリードし」という言葉を使っているわけです。そういう感じで案についてはよろしく申し上げます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。よろしいですか。杉山さん、最後にお一人、浜田委員さん。ちょっとご意見をお伺いしたいのですけど。

○浜田委員 どうも恐縮です。市長がスタンディングポジションとおっしゃいましたけど、私は全体として岡山のいまの問題と課題がよく整理されていると思いました。ちょっと表現が通俗だというご指摘もあって、その通りかなと思うのですが、逆にありきたりの計画ではないという非常に強い意気込みも感じまして、そこは非常にいいのではないかと思います。資料3が非常に分かりやすいわけですが、やはり最大のポイントは「静から動へ」というところで、要するに「動へ」というのは、市役所も動くし市民も我々も動かないといけないというメッセージだと思うんですけども、どうやって動のほうへもっていくかというのが、これからの課題なのかなと。委員の方からいろいろご指摘がありましたけれども、主語が誰なのか。例えば、まちのよさを国内外に発信する場合に、その主語は誰なのか。そこを分かりやすく、簡単に言うと市民が主体である、市民と市役所が協働してやっていく。そうするんだということは中に書いていますが、最初の「策定にあたって」というところがまだ書いてないので、そのあたりで強いメッセージを発していただけたらいかがであろうか、そんなことを考えました。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○大森市長 浜田先生のおっしゃる通りでございます。資料3の主語が抜けている部分をどういうふうにするか、次回までに整理させていただきたいと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。では、杉山先生。

○杉山委員 僕はコピーライターではないので、いい案は出せないのですが、前にも申し上げたように岡山のブランドをとにかくつくっていかないとだめだと感じます。それが何なのかということで、案とすると例えば「未来を拓く 躍動都市・おかやま」を残すのであれば、「躍動と都市」の間に「桃太郎」を入れるとかですね。そうすると桃太郎の説明が資料1にあまり書かれていないので、それを少し、これはこういう意味なのだということを入れないといけないと思います。僕の希望とするとぜひ岡山市が取り組んでいるものすべてに「桃太郎」を入れていただいたらいいのではないかなというふうに感じます。

もう一つ教育の話で、いま大学では反転授業とかアクティブ・ラーニングとかいろいろやっています。僕は岡山城東高校のSGHの委員をしていますけれども、50分とか60分の授業で課題を与えて、それを生徒にやらせて十数回の講義で課題が完全に消化できるかというところできるわけがないんですね。僕はクラウドを使ってドロップボックスなんかに資料をあげさせておいて、学生たちが時間のある時に資料を変えていくという授業をやっています。そういうことをやっていかない限り、つまり学生の自主的な学修意欲を高めるようなことをやっていかない限り、中々学力も伸びないし、いいものが出てこないんですね。ICTがなぜ大切なのかということをお先ほど申し上げたのですが、クラウドがすごく発達してきているので、それを上手に取り込むことによって岡山らしい教育が生まれてくるだろうと思います。

もう一つ分かっていることは陰山先生が作ったマス計算というのは、小学校レベルだったら非常に効果的だと思います。英語教育については立命館高校の姜先生が作ったコロコロイングリッシュというソフトがあって、これをやると必ず英語の学力は上がります。できれば中学校からコロコロイングリッシュを必ずやらせる。繰り返しになりますが、学校で学ぶ時間なんてたかがしれています。だから家でどれくらい楽しみながらやるかということがすごく大切で、そういうことをしっかりやっていかないといけない。

ただし、先ほど塩見先生がおっしゃられたように、セーフティネットとしての弱者救済ということをお考えなくてはならない。デジタル・デバイドというのは必ず出てきて、家にパソコンがない、あるいはパソコンを個人で持っていないというところと、実際にパソコンを持っている家庭・個人とでは、すごく差が出てくる。そういうところについてはできるだけ配慮をしてあげてほしいと思います。

新しい教育方法とか多く変化が出てきています。そういうことにしっかり取り組んで、岡山らしい教育制度をつくってほしいと思います。マス計算もコロコロイングリッシュも岡山の人が作り上げたソフトです。ぜひ取り組んでいただけたらと思います。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○梶谷委員 小出しにしていたんですけど、最後に全部言ってしまいます。まず将来都市像Ⅱの「子育て・教育都市」の中に「市民主体の都市を目指す」というのが入ってくるというのに、何となく違和感がありました。それで「都市づくりの10の基本方向」を見ると、都市経営は将来都市像Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとは別に掲げられているので、できればここも将来都市像の3つのその下に、この3つを実現する方法論として、市民主体の都市をつくる形で、これを独立させたほうがいいのではないかと。市民主体の都市というのは何も教育だけではなくて、恐らく健康・環境にもつながるでしょうし、経済・交流のところもそうなると思うので、この3つの将来都市像を実現するための方法としての市民主体の都市経営、要するに市民主体で行政も一緒になってやっていくんだということをお表現していただいたほ

うが、分かりやすいのではないかなということを感じました。

それから基本方向の1の中に、これはちょっと難しいのかも分かりませんが、経済政策の部分と回遊性というエリアの部分の両方が入っているので、一緒にするよりも分かれたほうが分かりやすいのではないかなと思いました。この項目は10くらい抑えるんだしたら、どこかを削るということでまた考えていただいたらと思います。それと地域経済で、企業立地、大企業誘致というのは大企業はどこが自分にとって有利かで動きますので、できればやはり地場の中小企業が主体、主役で産業振興をしていくというイメージを入れていただければと思っています。中小企業憲章というのもできていますし、できれば中小企業振興を地域振興の核として、そこが主体的に動いていくというイメージがあればと思います。

それからエリアのところですが、スポーツとかコンベンション、大学といった交流的なものはむしろ西口に結構できつつあるので、そういったイメージもここにあるといいのかなと。エリアの表現を中心市街地という意味で入れるのであれば、西口エリアのことも少し言及していただければありがたいなというふうに思いました。

それから基本方向6「市民主体のまちづくり」の中に「国際的に開かれたまちづくりを進めます」。何となく違和感がありまして、国際的に開かれたまちというのは、どちらかというと1の魅力と活力にあふれるまちづくりに入っているほうが分かりやすいのかなと。ですから基本方向の6と10を一つの括りで、新たな都市経営の方向としてまとめられたらどうかな、と思ったりしました。

○越宗会長 市長、どうぞ。

○大森市長 ちょっと考えてみたいと思います。あと杉山先生の影響で、我々の中で桃太郎というのが議論していてもすごく多くなってきました、桃太郎をどうにかしていこうかと。確かに岡山の売りとして桃太郎というのは、誰もが知っているものですから、それをどう表現していくか考えなきゃいかんなど。もう少し大きくクローズアップしていく。この総合計画ができたなら、ゆるきやら、いまは水と緑という視点のものでしたので、それを変えるのはどうかな、ということで、基本はいまのままでいいのかという話なんですけれども、やはり桃太郎を強調していくということであれば、ゆるきやらの要素を入れていくというのも一つあるのかなと。今回の総合計画の表現から、そういうことの動きも考えたらいいのではないかという議論も出ているところでもあります。

○越宗会長 はい。

○梶谷委員 経済同友会が来年の4月に全国セミナーをやります。それに「桃太郎の国から発信」というのが副題に入っておりまして、この桃太郎というのは桃太郎のリーダーシ

ップと、サル知恵、キジの情報、イヌの行動力、勇気。そういったものを表現しているということで、これを使おうという話になりました。世界に輝く地域をつくろうというテーマですので、桃太郎というのは、ある意味で一つのこういう価値観を持ってやるという表現にもなるし、いろいろなところで桃太郎に込められた思いというのは使いやすし、それが世界につながるのではないかなと。

○越宗会長 ゆるきゃらを間に合わせてほしいと思います。はい、どうぞ。

○片山委員 いらぬ心配かとも思うのですが、私も桃太郎、いいと思いますし、好きです。台湾に行きますと皆さんよくご存知です。ただ考えた時に桃太郎は鬼征伐に行く、何か自分の都合の悪いものを排除するといったらなんです、そのようなイメージがあります。国際的に考えた時に、ちょっとだけ危惧いたします。

○梶谷委員 鬼、温羅との両立がいいかもしれませんね。

○大森市長 片山さんの話は我々の中でも議論が出ています。仲良くやっていくというのは、非常に重要なコンセプトだと思います。何となく全体の空気がよかったので、我々としても意を強くしているので、これからいろいろ議論させていただきます。テーマ案も「未来を拓く」をどうするかということも別にしても「躍動都市・桃太郎のまちおかやま」というのはあるのかもしれない。そういうこともあるのかなということはあるんですけど、テーマ案につけるのがいいのかという話もある。普通なら「躍動都市・おかやま」になると思ったりもしますし、我々も16日までにもうちょっと考えてみますけれども、何かいいアイデアがあれば。

○越宗会長 はい。そんなに桃太郎が岡山市の中で議論されているとは知りませんでした。随分柔軟になっておられて心強く思いました。ということで、泉委員さん。

○泉副会長 最初の会議でまず夢を語って、できるのか、続くのかということを確認しましょうと言わせていただいたと思います。今日の資料4を拝見しますと、まず夢を語ったのですが、上手くまとまったなという感がありますし、これは長期計画の中で実現できるだろうなど。やる気とお金の問題はあるのですがね。そして続くかという点で言いますと、長期計画を前期と後期に分けるということが書かれていて、それは多分この審議会ではなくて、議会ベースの話になるのだろうなと思っているんですけど、そういうことでよろしいのですよね。

ご意見のありましたグローバル化の問題や、情報化のお話、桃太郎もそうなのですが、政策レベルでは意識されていると思うんです。政策立案段階では意識はされていると思い

ます。例えば資料4で、中期計画の施策のところを、いま全部点検しませんけれども、ほとんどの場合はグローバルという視点を忘れた政策はあり得ないし、情報化を忘れた政策立案というのにはあり得ないと思います。もしそこを忘れるなよということを担保するためということになると、資料3の、市長さんが非常に気になさっておられる、左の下の「時代の変化や要請」のところを、情報化やグローバル化などということを書いておれば、政策立案段階で忘れるということは絶対ないと思う。そういうことになるのではないかと思います。最後に資料3の真ん中あたりに「経済・交流都市」以下3つの将来都市像、べたりと書いてあるのですが、市長さんがおっしゃったように、これべたりだったら普通のことと思うんですよ。こういうことを意識する計画って当たり前ではないかという話になるので、市長さんがおっしゃったように、違うんだよと。岡山市の長期計画は一味違う、すなわち都市計画として一味違うということ、もつともろに表現なさったほうがいいのではないかと思います。以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。最後に市長、何かよろしいですか。本当にいろいろ意見を出していただきました。次回に活かせるものがたくさんあったと思いますので、事務局さんにご苦労ですけれども、ぜひ意見を踏まえた案を出していただきたいと思っています。長期構想の素案についての議論をここで終えたいと思います。

3 協議事項（2）その他

○越宗会長 協議事項の2でございます。その他につきまして事務局からありますか。

○事務局（門田） いろいろと貴重なご意見をいただきまして、それをもとに、また整理をして次回に提示をさせていただきたいと思っております。次回は11月16日の10時から予定いたしておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。その次回を踏まえて、今月下旬の答申に向けて動いてまいります。16日は最終的な審議ということになりますので、どうぞ委員の皆様、よろしくお願ひいたします。

4 閉会

○越宗会長 これで本日の会議は終了となります。では最後に大森市長さんにひと言お願ひしたいと思います。

○大森市長 今日はどうもありがとうございました。今日は十分しゃべらせていただいたのでコメントすることはないのですが、ただ今日の議論でなかった点が、資料3の矢印の最後の「活力・愛着・誇り」というところですね。これは岡山県レベルの話ですが、民間

の資料によると、自慢度とか愛着度というのが、47都道府県の中で必ずしも高いとはいえない。私としては、ぜひこういう計画を通じて、我々としてこういうことをやっていきたい、市民の皆さんとともに、ないしは市民が中心となって、こういうふうな方向にもっていきたい。そして、それが結果として、愛着心であり、誇りにつながっていくという、そういうことをこれからぜひ主張させていただきたいと思っている次第でございます。いろいろなご意見をいただいたところでもありますけれども、今月中ということなので、もう少しお知恵を拝借して、いいものにしていただければと思います。よろしく願いいたします。

○事務局（植月） これをもちまして平成27年度第7回岡山市基本政策審議会を閉会させていただきます。皆様どうもお疲れさまでございました。